

能登半島地震の被災地へ

～今できる自分なりの支援を～

2024(令和6)年1月1日に発生した能登半島地震の被災地支援のため、2月下旬に広島県のライオンズクラブが簡易シャワー4基を贈りました。贈り先は、石川県能登町齊和社区センターと小間生公民館へ各2基です。

呉安浦ライオンズクラブの廿日出一晴さんは、西日本豪雨災害時に全国のライオンズクラブから支援を受けたことに、感謝の気持ちを込めて今度は私達がお返しをする番だと運転手を申し出て現地に送り届けました。その後、全国のライオンズクラブの皆さんと共にシャワー用の水源確保(井戸掘削)準備、3月、5月には炊き出しボランティアへ参加されました。まだ被災した家屋などの後片づけなど進んでいないように見受けられたので、今できる自分なりの支援をこれからも続けていきたいと話されていました。



簡易シャワー



被災地のライオンズクラブの方と廿日出さん(写真右)



No.59

発行
令和6年6月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261(年4回発行)

神話の国出雲市伊野地区へ視察・研修

北は日本海、南は宍道湖を臨み山々に美しい棚田が広がっているのが魅力的な伊野地区へ、持続可能な地域づくりを目指し2月27日～28日に安浦町まちづくり協議会で視察・研修に行きました。

伊野地区の人口は2023年時点で1,186人であり、10年後には1,000人を下回る予測です。この人口減少に対応するため、伊野地区自治協会とNPO法人くらしアトリエが連携し、持続可能な地域づくりを推進しています。

伊野地区自治協会では、主に2つのテーマで活動しています。

1つ目は、「子育てするなら伊野で」というコンセプトで、農業の活性化を図るために、年に2回実施される産直市「伊野いち」において、小学5・6年生に宣伝や販売などの役割を担ってもらい、主体的な行動を促しています。

2つ目のテーマは、「まちづくり×関係人口(伊野の応援団)で活動の輪を広げる」というものです。一口5千円の寄付でふるさと会員になり、伊野のまちづくりを支えることができます。さらに「まちづくりフォーラム」を3回開催し、伊野の将来ビジョンを策定し、実現するために「伊野やって未来こい!ネット」が誕生しました。

NPO法人くらしアトリエでは、地域の人々が楽しい暮らしを送ることを目標としており、シビックプライド(地域への誇り)を高める活動や地域のイベントの内外への発信、オリジナルグッズや特産品の販売などを行っています。

伊野地区のシニア層は、30代、40代、50代の活動を尊重しサポートに徹していました。

安浦町でも参考になる事例もたくさんあり、実りある視察・研修でした。

瀬戸内安浦町に レトロ空間カフェ誕生!

2023(令和5)年9月13日(水)、安浦町内海南のカフェシエスタ跡に「café音の葉坂」がオープンしました。オーナーは、広島市安芸区阿戸町にある喫茶店「山小屋6鳴館(ろくめいかん)」を運営している原田直樹さん。骨董品の取り扱いをしているため、来訪者にコーヒーを出していたことから、喫茶営業が始まりました。

安浦町へは、知人のカフェシエスタオーナーから放置されているシエスタ跡地の運営を依頼され、自然豊かでJR呉線も通っている安浦町に可能性を感じ、二拠点でのカフェ営業を決心。営業までの改装は原田さん一人でDIYし、今のレトロ溢れるライブ演奏ありカラオケありの店に生まれ変わりました。

「新しいことにもチャレンジしていきますので、安浦町の方々に育てていただけたら幸いです」という原田さん。

レトロ空間を提供する「café音の葉坂」へ、ぜひ行ってみてはいかがでしょうか。



Café 音の葉坂外観①



店内入口



おすすめ太さ2.2mmのナポリタン



Café 音の葉坂外観②



店内飲食スペース



サイフォン式コーヒー

■ Café 音の葉坂

住所 呉市安浦町内海南 4-9-25 営業日 月～土曜日 ※日曜日・祝日お休み

時間 9:00～18:00予定 ※9:00～11:00はモーニング営業時間(事前に営業時間の確認電話がおすすめ)

駐車場 有り Instagram @otonohazaka_



連載「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲（1904-1994）の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取り組みです。

まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／9月号から連載を始め、今回で32回目のお話となります。



こどもたちが神社の境内で遊んでいます。輪のまん中にひとりのこども、取り囲むこどもたちが歌うのは、わらべ歌の「かごめかごめ」でしょうか。明治末期に生まれた山本譲がこどもの頃を思い返し、描いた作品と思われる。素朴な画風でこどもたちの姿を描き、山本譲の絵の中でも特に郷愁を誘う可愛らしい絵です。

「かごめかごめ」や、「花いちもんめ」などは、わらべ歌の中でも「鬼あそび歌」と称され、鬼をひとり決めて遊び歌います。わらべ歌は、学校で教えられる音楽とは異なり、こども同士の遊びの中で自然に覚えるもので、誰しものが一つや二つ、口ずさむことができるでしょう。ですが、令和のこどもたちは今、どのくらいわらべ歌を知っているでしょう。

地域には学校と家庭以外に、こどもたちだけのあそびの空間がありました。この絵に描かれた神社の境内はもちろん、森の中や原っぱにはこどもたちだけのあそびの集団が自然にでき上がり、豊かなわらべ歌の世界がありました。わらべ歌は全国共通ではなく、それぞれの地域で個性的なわらべ歌が伝承されてきました。安浦に残る古いわらべ歌、現在も知る人がいたらぜひ教えてください。

やすうら再発見 散策のすすめ ◆ 実成新開 季節を感じて

安浦地区の中には、新開と呼ばれているところが18か所あります。新開とは、ほとんどが海岸や入江などを埋め立て耕地などにした土地のことを言います。今回紹介するのは、三津口地区にある実成新開干拓地です。

1822（文政5）年に尾道の人が最初に干拓の申請書を出し1840（天保11）年頃から工事が始められました。その後、内海村、広村の人によって工事が引き継がれ1861（文久元）年に完成しましたが、堤防が決壊してしまい当分の間そのままの状態でした。1904（明治37）年香川県丸亀市の人によって再び工事が始められ、いろいろな人の努力により33ヘクタールの広い干拓地が完成しました。それから実成新開は、塩作りが始められおおよそ30年間続けられていましたが、1942（昭和17）年海軍用地として計画され翌年には買収され海兵団が移転してきたため、塩は作られなくなりました。戦後は、開拓農地、広島県営スポーツグラウンド計画、廃棄物処分場として利用されるなどさまざまな土地利用がなされ現在に至っています。

実成新開の一周道路を歩くと、河津桜、八重桜、野呂川河口付近のおおさのり・ハクセンシオマネキ（絶滅危惧種）、魚の群れ、渡り鳥（かもなど）の群れなど、四季折々の景色を見ることが出来ます。季節を感じてください。



河津桜



日の出



ハクセンシオマネキ（絶滅危惧種）



八重桜



武智丸

YOSHIKO' 通信

第2回 ALOHAジュニアSUP & 餅つきイベント

2024（令和6）年3月20日、七浦海水浴場で、小中学生向けのSUP体験と餅つきイベントが開催されました。時折降る小雨や寒さも吹き飛ばすように、子どもたちは元気いっぱいイベントを楽しんでいました。

まずはSUPで海へGO～

20名の定員に達しました。SUPボードの上で楽しく漕いだり、ゆっくり座ったり、友達と一緒に漕いだり、熱心なインストラクターの指導のもと、楽しい時間を過ごしました。子どもたちは、寒さも吹き飛ばすほど元気いっぱい、テントサウナに入って暖まる？と尋ねられても、まだ漕ぎたいという意欲に満ちていました。

その後は餅つきの時間です。湯気の立つもち米を臼と杵でぺったんことつき、みんなで大人と一緒にまるめて食べました。

地元産のもち米できな粉餅、醤油餅などのおいしい餅が振る舞われ、何度もおかわりする子もいました。

このイベントの成功は、地域の協力を得て、まちづくり協議会、地域のボランティア、KGS outdoor shop、安浦SUP実行委員会、波輝カフェ、皆さんのおかげです。これからも素晴らしいイベントを企画していきます😊



2024（令和6）年7月15日、七浦海水浴場にてSUPヨガイベントが開催

OluOlu SUP YOGA



ビーチクリーン 9：00～
SUPレクチャー&SUPヨガ ① 10：00～12：00 ② 13：00～15：00
SUPの上でヨガをしながらリフレッシュする、至福の時間を体験できます。

お問合せ 地域おこし協力隊 鈴木 ☎090-6557-0260
メール yoshiko.place@gmail.com
Instagram @yoshikostyling

